

令和3年3月19日

京都市立桃陽総合支援学校

校長 石原 廣保

令和2年度学校評価アンケート結果のご報告

令和2年度学校評価に係る後期アンケートにご協力いただきありがとうございました。

児童生徒や保護者の皆様、学校関係者の皆様から頂きましたアンケート結果から、桃陽総合支援学校の教育活動について、分析・考察を行いました。

皆様からいただきました貴重なご意見を参考に、さらなる教育活動の実現に向けて取り組んでいきたいと思います。本誌面ではアンケート結果から、いくつかの項目を取り上げてご報告いたします。

【確かな学力について】

「学校生活は楽しい」という項目での肯定的な意見は、小学部の児童については前期とほぼ変わらない結果となりました。中学部の生徒については前期と比べて、少し低い結果となりました。また、前期ではなかった、「そう思わない」という回答が19%もありました。

今年度の後期についてもコロナ感染拡大防止のため、行事の中止や変更など、例年のような学校生活ができない部分がありました。そのことが、中学部の生徒にとって、「学校生活が楽しい」と思わない回答につながったのではないかと推察されます。

「勉強はよくわかる」という項目の肯定的な意見では、小学部の児童は前期より6%程度、中学部の生徒は、前期より8%、肯定的な意見が減少しました。また、「タブレットPCや電子黒板を使って学習することで、よくわかる」という項目の肯定的な意見では、小学部の児童は前期より6%減り、中学部の生徒については前期とほぼ変わらない結果となりました。

今年度は配信での授業も例年より多く、登校できず対面で学習ができなかったことも多くありました。教職員は様々な工夫をして、配信授業に臨んでおりましたが、コロナ禍で病室に入れないため配信による機器の不具合などに対して、サポートができない場面も見られました。そのことも、子どもたちの肯定的な意見の減少に影響していると推測されます。

【豊かな心について】

「自分にはよいところがある」という項目では、小学部は5%、中学部は9%程度、前期より肯定的な回答が増えました。前期はほぼ行事はなかったのですが、後期に入って少しずつ行事等も行うことができ、教職員も子どもたちがそれぞれ活躍する場面を考え、取り組んできました。今後も、入院したことで自己肯定感が下がる子どもたちをどのように教職員がサポートしていくのか、考えていく必要があります。

【すこやかな体について】

「私の悩みや困りごとを聞いてくれる人がいる」の項目では、肯定的な意見が小中学部ともに70%程度で、小学部は前期より4%ほど、中学部は7%ほど下がりました。おもに子どもたちは病院での生活で例年、肯定的な意見が多い項目ですが、前期後期ともに低い結果となりました。コロナ感染拡大防止のため、例年とは違う状況ですが、周りの教職員が子どもたちのサインに気づき、話を丁寧に聞くなど、取り組んでいく必要があります。

「病院の先生や看護師さんに言われたことを守る」の項目では、肯定的な意見が小学部は前期とほぼ変わらず80%ほどでしたが、中学部は79%から67%に減少しました。中学部は例年と同じような割合になりましたが、まだまだコロナ感染拡大防止のため、中学部の生徒も、これまで以上に病院の先生や看護師さんが言われたことを守ろうとする意識を高めていかなければいけないと考えられます。

アンケートや学校運営協議会でいただいたご意見を、今後も保護者、学校関係者のご協力をいただきながら教育活動全体に活かしていきたいと思います。